



流山市教育委員会様

学校版ケーススタディを通してタイムマネジメントを見直す



① 1…お金の所在
いつなくなっただ？
持ってきてない？
5…名簿で確認
7…校内で共有
8…お金を要求
→相談、内々に連絡
10…今？病院後？

② 問題認知のタイミング
→日中から掲示板の確認
→日中に片付けられるもの

10の取扱い 内容が不明
・分からないから先？
・長いかもしれないの？

① 保護者が関係しているものはすぐ！
今日中
(1) 明日以降の予定
(2) お悩み相談
(3) 教材のお金不足

② 丁寧に対応するもの (後日)
(1) 後日朝に該当児童指導
(2) 学年・学年と確認後
(3) 管理職へ報告し指導にあたる

② 他の職員に関わるものはすぐ!!
(1) 期限を確認し、過期しないようにする
★非常事態があれば、クワダ物でも伝えるべき
★病院の日を調整する!
(自分たちで、強行しない)
★仕事の分担をする。(既知関係性)

背景

流山市では、児童数の増加に伴い学校の新設を進めている。また、教員の長時間勤務が課題となる中、流山市教育委員会は「働き方改革」を推進し、在校時間の適正管理や業務効率化を推進している。そこで、学校単位でタイムマネジメントを主軸においたワークショップを実施させていただくことになった。

導入

市内の小学校にて、学校現場で起こりうる10の案件を提示し「緊急度」「重要度」に分けてマトリックスを作成していただいた。グループで意見を共有したのち「優先順位設定」「問題分析力」「計画組織力」に関する情報を提供し、様々な視点や普段の仕事の仕方について振り返っていただく機会を設けた。

効果

受講者からは「仕事の優先順位のつけ方は、人によって判断基準が違い、様々であることがわかった」「自分自身ですぐに行える業務とそうでない業務との区別や、同僚や期日が絡むものなどの判断をすぐに行い、効率の良い仕事を心掛けていきたいと考える」という声をいただき、視野を広げる機会となった。

<受講者アンケートから>

- ・危機管理の観点から、学校組織としてどのようにその違いを共有したり対応したりしたらよいか、考えることの重要性を感じた。
- ・自分自身ですぐに行える業務とそうでない業務との区別や、同僚や期日が絡むものなどの判断をすぐに行い、効率の良い仕事を心掛けていきたい。
- ・案件の内容が身近でドキッとしました。今日の業務から、学んだことを活かして仕事に取り組みたいです。
- ・仕事を効率よく進める方法について知ることができ、業務改善につながる内容であった。
- ・楽しみながら、視野を広げることができた。

<研修についてのご意見>

- ・研修内容のようなケースの場合、日頃の職員間の関係の良さやつながりの柔らかさも、教職員の働き方や学校としての組織力に大きく影響すると感じた。
- ・80分くらいの研修時間が確保できればよりよかったと思う。
- ・夏休み等に取り組めるとよいと思いました。
- ・今回のような研修はないので、面白かったです。
- ・学校単位で実施することにより、タイムマネジメントや仕事に対する共通認識を持つことができるのは有意義であると感じた。



若手の視点

案件①
本日提出いただいた家庭科のナップザックセットの申し込みの件です。



ベテランの視点



お互いに新しい視点を得る
相互理解・OJT促進

